

山梨県立産業技術短期大学校 都留キャンパス

〒402-0053 山梨県都留市上谷5-7-35
☎0554-43-8911(代表)



幅広い専門知識や高度な技術を習得し、豊かな創造力と判断力を兼ね備えた技術者を育成して、県内の産業や経済の発展に寄与するため、平成11年4月に「ものづくりとホスピタリティ」の教育理念のもと開校しました。山梨の主力産業である機械・電子工業の発展に貢献すべく「生産技術科」・「電子技術科」を、急速に進行するICT技術に対応すべく「情報技術科」を、さらに観光立県山梨を担うおもてなしのスペシャリスト育成を目指し「観光ビジネス科」を設置しています。各科とも基礎から最新技術まで学べるよう質・量ともに十分な実験・実習設備を備え、充実した学習環境を提供しています。また、社会適応能力の養成もカリキュラムに取り入れており、巣立った卒業生は各方面より高い評価を得ています。

さらに、技術系の人材不足を懸念する富士・東部地域の産業界からの要望に応える形で平成25年4月に、「生産技術科」・「電子技術科」の2科を擁する都留キャンパスが開校しました。

学科編成

生産技術科・電子技術科



受講可能なメニュー、イベント

履修生・聴講生制度、小学校出張授業、パソコンや機械設計に関する能力開発講座、国家資格取得講座(宅建、電気主任技術士等)等



小学校出張授業

3 大学の受講可能な 講座を知ろう

健康科学大学看護学部

〒402-8580 山梨県都留市四日市場909-2
☎0554-46-6600(代表) FAX 0554-46-6606



急速に進行している高齢化社会のニーズに基づき、平成15年に開学した新しい大学です。健康科学部に理学療法学科、作業療法学科及び福祉心理学科の3学科を、看護学部看護学を設置し、健康を科学するとともに、国民の健康維持に貢献できる医療・保健・福祉の専門家を育成することを目的としています。

平成28年4月に都留キャンパスを開学し、山梨県に暮らす、乳児から高齢者まで全ての人を看護の視点をもって看まもり、社会の動向を見据えた先駆的な看護教育を実施しています。健康レベル・発達段階が異なってもその人の生活がその地域で看まられるような高い看護実践力を身につけ、社会で求められる看護師を育てています。

学科編成

看護学部 ▶ 看護学科



受講可能なメニュー、イベント

市民公開講座、看護の日イベント等



看護の日イベント

公立大学法人都留文科大学

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1
☎0554-43-4341(代表) FAX 0554-43-4347



1953年に創立し、教員養成の大学として知られ、60年以上の歴史の中で着実な発展を遂げてきました。1960年に文学部に初等教育学科と国文学科を設置した4年制の都留市立都留文科大学となり、その後、1963年に英文学科、1987年に社会学科、1993年に比較文化学科を増設しました。2009年には公立大学法人となり、2017年に国際教育学科を増設したことで、文学部6学科編成となりました。さらに、2018年には学部・学科を改編し、学校教育学科と地域社会学科を設置した教養学部を開設し、教育の質を上げることを目指します。施設設備の点においても、国際交流会館やアクティブラーニングに対応した新講義棟が完成したことで、教育・研究のための環境がさらに充実しました。

学科編成

教養学部 ▶ 学校教育学科、地域社会学科
文学部 ▶ 国文学科、英文学科、比較文化学科、国際教育学科
文学専攻科(教育学専攻)
大学院(文学研究科)



受講可能なメニュー、イベント

履修生・聴講生制度、市民公開講座、文大名画座、こども公開講座、ムササビ観察会、つる子どもまつり等



聴講生制度

都留市には
大学がいくつあるか
ご存知ですか？

答えは、公立大学法人都留文科大学、健康科学大学看護学部、山梨県立産業技術短期大学校都留キャンパスの3大学。都留市のような3万人規模のまちで高等教育機関が3つもそろっていることは、とっても珍しいこと。しかも、これらの大学は市民に向けての聴講生制度や講座イベントなどを数々開催しています。これだけまちに開かれた体制があるというのも、都留市ならではの特徴です。



3大学と連携したまちづくり 『大学コンソーシアムつる』とは

平成27年10月22日、都留市の政策と3つの大学の「ヒトづくり」「モノづくり」「健康づくり」という特色を組み合わせ、「大学コンソーシアムつる」を設立しました。

これは、今ある大学の施設や人材を活用し、市民の皆さんに生涯学習や産官学民の地域交流の場などの提供することを目的としています。

現在本市では、「生涯活躍のまち・つる」事業におけるコンセプトの一つである「まちの強みを活かした大学連携型都留市版CCRC」として、各大学の特色を活かした生涯学習プログラムの構築に取り組んでいます。また、都留市と3つの大学との交流を深めるため、プロジェクトチームを発足したほか、イベントでの合同出展等を行っています。

大学コンソーシアムつる



○合同出展イベント実績
つる産業まつり(都留市主催)、ワクドキチャレんじ「小学生ものづくりフェスタ」(山梨県立産業技術短期大学校都留キャンパス主催)

公式イメージキャラクターのコンつるくんとツルシアちゃん。主に大学コンソーシアムつるの広報活動を行っています。

Interview
「大学生」に聞く



地域の応援があるから、
学生がのびのび活動できる
都留 × 大学生

市外出身でも、都留市を好きだという学生はとても多い。そんな学生の一人で、都留文科大学の学生が運営するゲストハウス『ゆかり』の立ち上げメンバー・石川さんと、管理人の加納さんにお話をうかがいました。

地域住民の協力でできた
ゲストハウス

まず、石川さんに、ゲストハウス立ち上げのきっかけをうかがいました。
石川 「ゲストハウスって、その日偶然会った人たちと一瞬で『ぎゅっ』と仲良くなれるんです。そういう、人とのつながりを感じられるあたが、いい空間を作りたかったと思います。」
『ゆかり』は、地域住民の協力なくしてはオープンできなかったといいます。
石川 「物件探し的时候は、地域の方が空き家所有者と連絡をとってくださるなど、親身に協力してくれました。リノベーションも、『近所さんの紹介で、地元の大工さんにお願しました。大家さんには資金面でもお世話になりました。本当は多くの方に協力していただきました。』
しかし、厳しい言葉もありました。

都留は、学生の活動を
受け入れてくれるまち

市外や国外からもさまざまな人が訪れ、人と人を繋ぐ場所”となっている『ゆかり』。今後の目標は。
石川 「地域の方や学生など、もっと人が集まってくれるようなまきかけづくりをしたいです。」
そのためには、石川さんたちの卒業後も運営に携わってくれる人が必要です。

石川 「資金集めにクラウドファンディングを使った時は、『資金が集まらなかつたらどうするのか』『ゲストハウスをやる覚悟は本当にあるのか』と言われるました。本当に応援してくれているからこそ言葉なので、真摯に受け止めて、今後どうするかを考えました。」
石川さんたちと一緒に『ゆかり』を作ってきた地域の方々。ずっと、オープンをとても喜んでくれるはず。
石川 『ゆかり』を歌詠みの集会に使ってくれたり、市外のお友達に紹介してくれたりして、それがとてもうれしいです。」
日々、いろいろな人に
出会えることがうれしい

加納さんは、姉が立ち上げメンバーと友人だった縁で、2017年10月から運営に参加しています。

加納 「以前は金沢の大学にいましたが、同じことの繰り返しでつまらない日々を送っていました。大学生活に疲れて休学を決めた時期に、お姉ちゃんから来ればと言われて。泊まる場所を探すだけのつもりが、いつの間にか管理人になってましたね(笑)」。

そんな加納さんですが、今は毎日充実していると楽しそうに話してくれました。
加納 「今まで関わったことのない、いろいろな人たちに会えるので、毎日とても刺激的。ぼくにとって大きな収穫です」。

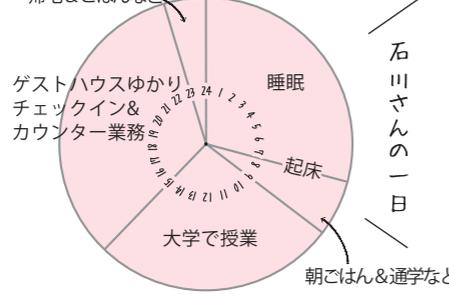
Advice from professional
これから
都留へ来られる方へ

石川さん 「都留は、人のあたたかさが本当に魅力的なまちです。都留に来て、ぜひ、それを感じてみてください」。

加納さん 「都留は、新しく何かを始めたい方も受け入れてもらえる場所です。みんなお店を開いてください。クセが強くて大丈夫!!」。

石川さんとゲストハウス『ゆかり』の歴史

- 2014.4 都留文科大学英文学科に入学。石川県から引っ越してくる
- 2016.12.20 ゲストハウス『ゆかり』計画始動
- 2017.1~3 空き家探し
- 2017.4~9 営業許可手続きなど
- 2017.7~8 改装&大掃除、資金集め
- 2017.11.01 ゲストハウス『ゆかり』オープン
- 2018.03.22 都留文科大学を卒業予定 帰宅&ごはなど



ゲストハウス『ゆかり』管理人・加納さん



運営メンバー5人。現役の都留文科大学生が中心。



『ゆかり』オープニングイベント。



地域の方や宿泊者が集う「コミュニティスペース」。ここでイベントを行うことも。



ゲストハウス『ゆかり』運営・石川さん

移住希望者の駆け込み寺
「移住促進センター」とは

移住促進センターは、首都圏以外での暮らしを考えている方、共に地域づくりを担いたいと考えている方たちなどの相談に乗り、多世代共生の地域づくりに取り組む自治体への橋渡しを行っています。さらには必要な手続きなど、「二地域居住」「お試し居住」も含め、きめ細かくサポートしていきます。

「移住促進センター」で
できるコト

- ① 自治体展示ブースで情報収集
- ② 相談員に話を聞く。自分の思いや課題を整理
- ③ セミナー、お試し体験ツアーに参加し都留市を体験
- ④ 相談して不安や疑問を解消。準備が整ったら…
- ⑤ 二地域居住、移住生活スタート



「つるをつくる会」の開催日については下記の電話番号からお問合せください。

住 東京都千代田区有楽町1-7-1
有楽町電気ビル南館5階
☎ 03-6256-0570
開 月～金 10時～17時
(休館 土・日・祝)
交 JR 有楽町駅：日比谷口徒歩1分
地下鉄日比谷駅：A3出口から直結

講義の
Point!

成年後見制度は2種類あります

「任意後見制度」
判断能力が十分なうちに、自分の意志で任意後見人を選ぶことができる制度です。

「法定後見制度」
判断能力が不十分な方に、裁判所が適任であると認められた人を後見人にする制度です。

後見人は家族になるケースが多いですが、複雑な家庭環境の方もいらっしゃるようで、司法書士など専門家が選ばれることがあるようです。

高齢者住宅に入る前に、信頼できる「成年後見人」を立てておきましょう。

まとめ

参加者
interview

「都留に期待するコト」



東京都在住の
金井さん

Q 都留に移住したら何をしたいですか？
A 今現在、品川区で保育関係のお仕事をやっているのですが、都留市でもお仕事を続けて地域の人たちと交流したいですね。仕事を通して自分も元気になりたい、周りも元気にしたいです。

Q これからの都留に期待することはなんですか？
A 移住者と地域の方が一緒になって活動する場所がほしい。高齢者と大学生が歌ったり踊ったり(笑)。私の趣味は合唱なので、将来的にコーラス部を立ち上げたいですね。



長野県在住の
内田さん

Q 都留を好きな理由をおしえてください。
A スマートシティ化しているところですね。中心地から4km圏内に市役所、病院、スーパーからゴルフ場まですべてそろっている。

Q サービス付高齢者向け住宅に必要なこと。
A 高齢者住宅は一人暮らしの女性が多いので、「共助」という意味で自治会を作りたいです。あとは大学生が市内に引っ越しやすい環境をつくってあげたいですね。

「つるをつくる会」で
学んだコト

第7回のテーマは「成年後見制度」でした。サービス付き高齢者向け住宅における身元引受人の役割から講義は始まり、みなさん積極的に講師の方に質問をぶつけたり、過去の経験を引き合いにだしたりと、なかなかの熱量でした。

全国的にも後見人まつわるトラブルは続出しているようで、しっかりと「成年後見制度」について学び、信用できる「任意後見人」を選ぶことが重要だと学びました。



地域おこし協力隊の方々が親身になって移住者たちをサポートしてくれます。

自治体と人を“つなぐ”
「つるをつくる会」へ参加しよう

移住に関する講義を受けたり、意見交換を行う場が「生涯活躍のまち・つるをつくる会」です。月に一度、都留市への移住検討者が集まり、今回(2018年1月22日開催)で7回目を迎えた「つるをつくる会」は、より濃密で具体的な講習、意見交換を行っていました。

